



なんで今？ そう思いながら 回っていたPDCA！



☆2年目の挑戦☆



社会福祉法人桜園
特別養護老人ホーム桜の丘



社会福祉法人
桜園

障害者支援施設
桜園

- 障害者支援施設桜園
- 福祉型障害児入所施設桜園児童部
- ケアホーム・ほがらかホーム
- 就労継続支援B型事業所ファミの小屋
- 放課後等デイサービスさくらんぼ

特別養護老人ホーム
桜の丘

- 特別養護老人ホーム桜の丘
- 短期入所生活介護
- デイサービスセンター桜の丘
- 小規模多機能さくらぞう
- グループホームさくらぞ



養護老人ホーム
紅葉園

養護老人ホーム紅葉園
(ショートステイを含む)



2年目のスタート



- ①桜の丘関連施設の職員全員にノーフティングケアとは何か学んでもらう
- ②療養部職員は2年目の取り組みとして昨年実施した研修の第2クールを実施
- ③地域への発信は近くの短大で実施される福祉フェアで発信する

新型コロナウイルス感染症
による施設機能の
低下

計画立案していた
ことが大幅に修正
が必要に！



①桜の丘関連施設の職員全員【45名】に ノーフティングケアとは何か学んでもらう

【期間】 令和3年7月26日～8月9日の間に20回の研修を実施

【対象者】

- ・デイサービス・グループホーム・小規模多機能で勤務する職員、事務職員、栄養部職員も含め

【取り組み内容】

- ・ノーフティングケアとは何か
- ・身体の使い方
- ・取り組みの必要性
- ・腰痛調査の実施



②療養部職員は2年目の取り組みとして昨年実施した研修の第2クールを実施

予定

STEP-1	6月
STEP2-①、②	
STEP3	7月
STEP4-①、②、③、④	
STEP5-①、②、③、④、⑤	8月
STEP5-⑥、⑦	9月
STEP5-⑧	10月
STEP5-⑨、⑩、⑪、⑫	1月
STEP5-⑬	

大幅に見直し・変更

実施状況

7/26~8/9
9/21~10/31
11/8~30
10/30
1/10~1/30
2/10~28
10/31

③地域への発信

- ・保育や医療、福祉を学ぼうとする高校生 33名
- ・福祉学科の学生さん 18名
- ・地域住民・近隣の福祉施設の事業所 12名
- ・介護福祉士養成校の教員 7名
- ・大学や高等学校などの求人
- ・ホームページでの発信



事例 利用者I様の座位姿勢の見直し
⇒【計画】筋緊張が和らぎリラックスした姿勢で座位がとれるようになる

【状況】

- ・リフトで車いすへ移乗しているが奥深く着座することができず、ずり下がる座位姿勢になる。
- ・身体が硬く介助のしづらさがありスリングを見直し着脱のしやすいスリングを選択



座る

適切に座る



車椅子を傾けバックサポートに臀部を添わせながら座る。

臀部の位置がしっかりと奥の方へ着座することで骨盤が起きた状態となり座位が安定する。

【座位姿勢】Before



【適切な姿勢で座る】After



しっかりと臀部が入り座位姿勢をとることができるようになる

【食事】Before (全介助)



After (ほぼ自立)



自分で器を持ちスプーンを使用して食べられるようになる。

車椅子に奥深く座るようになったことで姿勢が整い上肢を動かしやすい、自分で食事を食べることができるようになりました

しかし・・・



腰が痛くて仕事
ができないので
休みます



日頃のケア

リスク探し



体重移動の練習



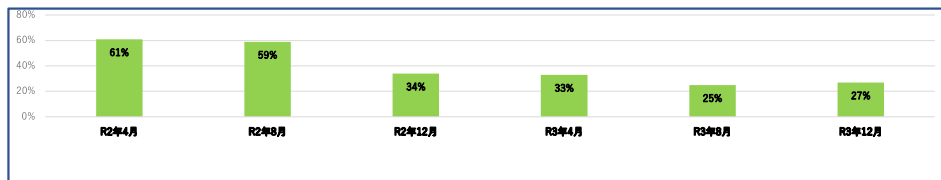
ネガティブ
感情

この状況
中でなんで
今ノーフ
ディングケ
アなの？

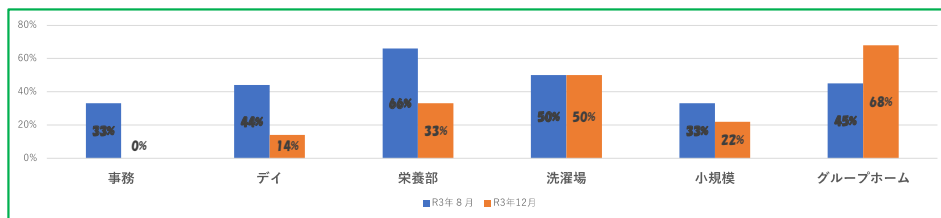


そう思いながらも、取り組みは止まることなく日々継続・・・

特別養護老人ホーム桜の丘職員の腰痛状況の変化



今年から取り組み始めた関連部署の腰痛状況の変化



常に痛い・時々痛い職員の割合

振り返ってみると

技術研修の時間
15時からできま
すか？現場は大丈
夫そうなので・・・
20代男性

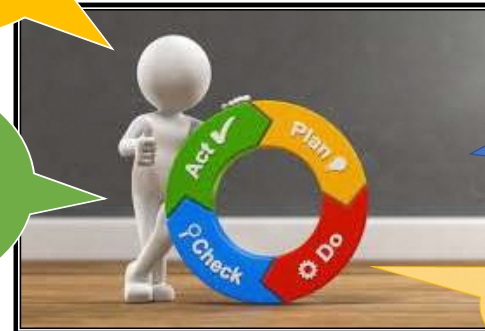
出来ないことを出来
ないと伝えることが
できるようになり、
じゃあどうしようと
考える、職場風土
の変化
20代女性

研修期間もう少し
伸ばしていい
ですかね？
30代男性
計画を見直しま
しょう。
40代女性

介助はやさしく！
「エレガントに」
ですよね。
40代男性

「はい。じゃあ体重移
動の練習します！」

毎朝その日のリーダー掛け声



2年目の変化

・リフトやボードを**適正**に使用できるようになり移乗介助中の剥離や皮下出血の事故が年間**7件**から**2件**に減り、職員も身体的負担が軽減した。

- ・ケアを急がなくなった。体重移動を意識するようになった。
- ・ベッドの高さを調整することが当たり前になった。



未来に向かって

- ・令和4年度他部署での委員会の立ち上げ。研修の実施
 - ・福岡県の事業から離れても自分たちでPDCAサイクルを回し続ける
- 「病気をしても年齢・性別・国籍を問わずご利用者・職員が安心して過ごせる施設」となりこの実践を通し家族・地域などと「輪」になっていきたい